

令和6年9月6日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ハスモンヨトウの発生に注意が必要です

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、8月以降増加がみられ8月下旬には地域によって急増し、平年よりも多い誘殺が確認されています（図1、2）。

本虫は高温乾燥で発生が助長されますが、1ヶ月予報（9月5日・福岡管区気象台発表）によると、9月7日以降の気象は平均気温が高い確率が80%と予報されています。

今後は、圃場でのハスモンヨトウの発生状況に注意し、早期防除に努めてください。

【作物】 大豆、野菜類、花き類

【病害虫】 ハスモンヨトウ

防除上の注意事項

- ア 本虫は卵塊で産卵するため、孵化後に集団で葉を食害し、その後成長とともに分散します。幼虫は分散すると薬剤がかかりにくく、老齢になるに従って薬剤の効果が低下するので、早期防除に努めてください。
- イ 野菜類及び花き類では、育苗期や定植直後に発生すると被害が大きいため、こまめに見回り、発生初期の防除に努めてください。
- ウ 施設栽培では、開口部に防虫ネットを張り、成虫の侵入や産卵を防止してください。
- エ 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



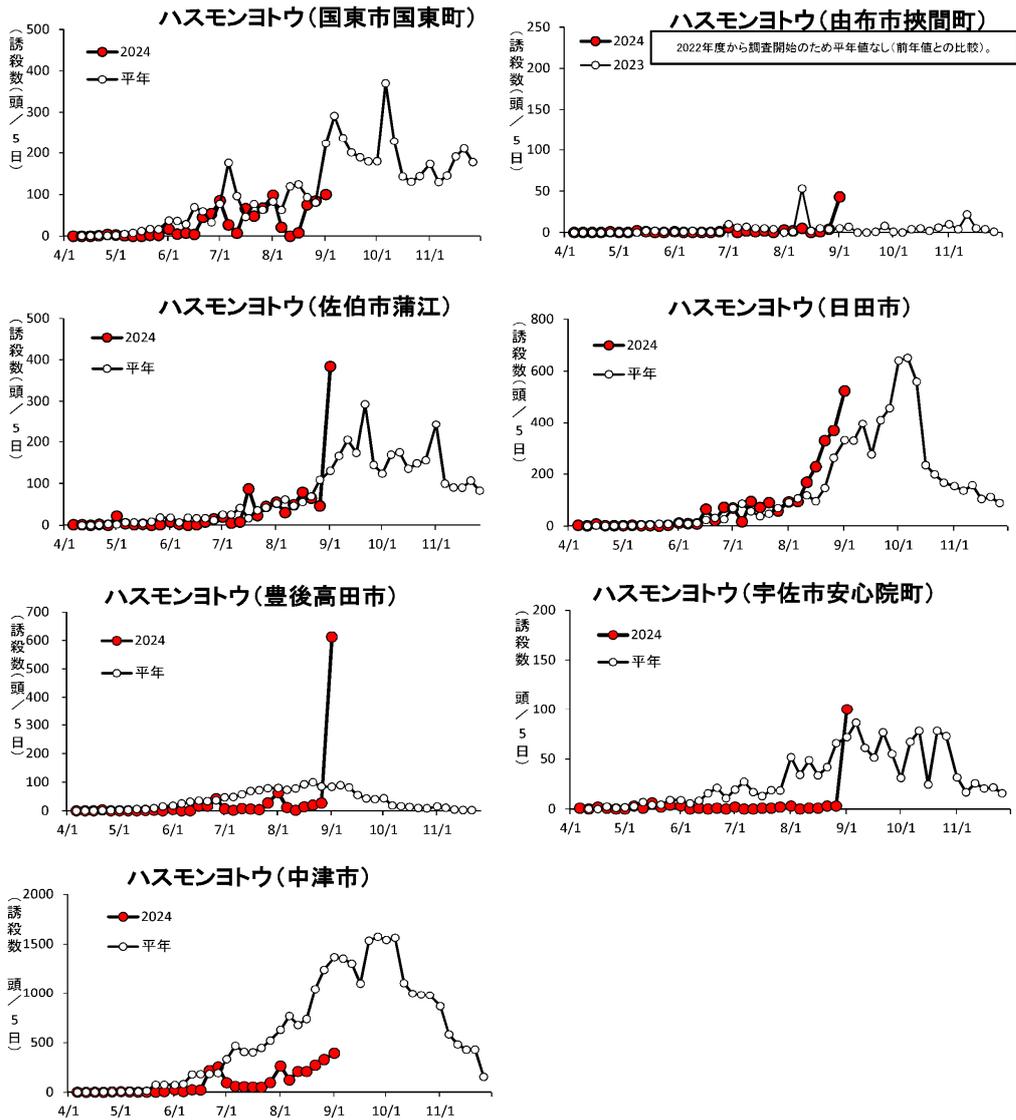


図1 県内各地におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

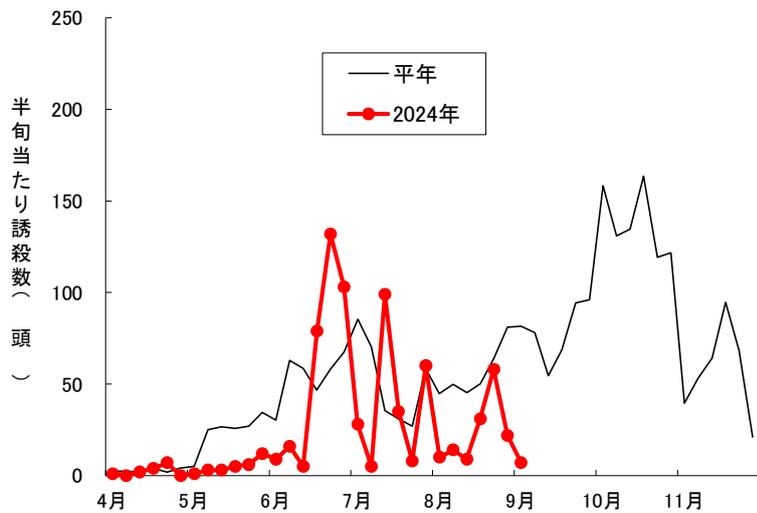


図2 農業研究部(豊後大野市三重町)におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況